

“Holy Head”再考: 『ガウェイン卿と緑の騎

士』にみる聖ウィニフレッド伝の表象

——Robert of Shrewsbury と Osbern Bokenham から——

要旨

氏名：中川健司

中世英文学の白眉『ガウェイン卿と緑の騎士』(*Sir Gawain and the Green Knight*, 以下 *SGGK*) の第 700 行に *þe Holy Hede* (Holy Head) という地名が登場する。この地名が現在のアングルシー島はホーリーヘッドを指し示すと仮定すると、本文の記述と明確な矛盾を引き起こすことから、今日に至るまでこの謎の地名に関して多くの議論が成されてきた。本論は、北ウェールズの聖人である聖ウィニフレッドの聖地ホーリーウェル (Holywell) との関連を指摘する先行研究を支持し、これを改めて精査するものである。

そのためにまずは *SGGK* が制作されたとされる 14 世紀における聖ウィニフレッド伝承の在り様を、現存する写本及び王侯貴族の巡礼の記録から確認した。これは *SGGK* の作者である「ガウェイン詩人」が知り得た聖ウィニフレッド伝承をできる限り正確に把握する目論見でもある。その結果、元来北ウェールズの聖人であった聖ウィニフレッドの伝承は、聖遺物の移管やそれに伴う聖地への巡礼者の増加を通して、イングランドの広範な地域に広まっていたことが確認された。更に、当時の伝承内容を確認する上で、12 世紀にロバート・オブ・シュルーズベリー (Robert of Shrewsbury) が成文化した伝承と、15 世紀にオズバーン・ボクナム (Osbern Bokenham) が著述した伝承が特に重要であると判明した。

これら二つの伝承内容から、14世紀の聖ウィニフレッド伝承が *SGGK* に及ぼした影響を考察する。ガウェイン卿が作中で行う旅程は作品内の地名からある程度再建することが可能であり、*þe Holy Hede* とホーリーウェルが近しい位置に想定されていたことが確認できる。更に、最も印象的な表象である「斬首後の復活」を始め、「泉」「首の傷跡」「転がる頭」「信仰に殉ずる生き様」といったモチーフ、テーマを共通して見出すことが可能である。これらのモチーフは先行研究でも指摘されていたところであるが、本論ではこれらに加えて生命への加護を与える「帯と外套」の表象にも注目した。

一般的に騎士道物語として解釈される *SGGK* であるが、その背景並びに基層に存在する地方の聖人の伝承を除外して考察することは叶わない。作品を貫くテーマや種々のモチーフを通じ、ガウェイン詩人の想像界^{イマジネール}を再構築することで、謎の地名として現れる“Holy Head”が聖ウィニフレッドの「聖なる頭」の表象であることが傍証されるのである。